しもつけクイズ【正解は①】詳しくは34ページをご覧ください。

自治医科大学附属病院が提供する高精度放射線治療

自治医科大学附属病院　放射線治療科教授　白井克幸

放射線治療棟のご紹介

皆さま、こんにちは。この度、当院にて令和5年12月に竣工となりました放射線治療棟ならびに、新たに導入された放射線治療機についてご紹介します。

放射線治療棟は延床面積3,129m^{2}で、鉄骨3階建となります（写真1）。1階は放射線治療機やラルストロン室、2階には外来診察スペースや治療計画CTが設置されており、3階には渡り廊下にて子ども医療センターや病院本館と接続されています。

これまで放射線治療部は本館地下にて運用していましたが、患者さんからは暗くて狭いイメージを持たれることが多かったため、新たな放射線治療棟では「患者さんに明るく穏やかな気持ちで放射線治療を続けていただくための空間づくり」をコンセプトとしました（写真2）。

令和6年1月から放射線治療棟での外来診療を開始していますが、患者さんには「明るい雰囲気で良い施設ですね」と、お褒めの言葉をいただいております。

写真1

写真2

最先端の技術を用いた高精度放射線治療

症放射線治療棟ではVarian社製の最新鋭の放射線治療機を2台(TrueBeam、ETHOS-HyperSight)新たに設置し、当院では合計4台体制での放射線治療となります。近年の放射線治療技術の発展は目覚ましく、放射線治療機器や計画装置の精度は高くなり、治療成績は改善しています。

これまで当院での年間放射線治療数は約1,000名と、県内でも最多でありましたが、今回の治療機の導入に伴いさらに多くの患者さんに高精度な治療を提供することが可能となりました。TrueBeamでは全ての放射線治療が対応できる汎用型ライナックとなります（写真3）。また、転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療システムであるHyperArcを備えています。

写真3